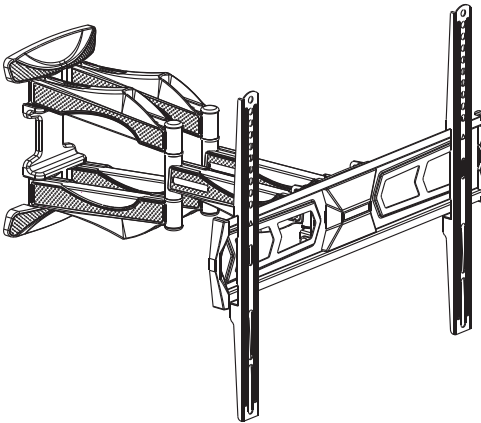


薄型テレビ壁掛け汎用サイズ金具
TV セッター
TVSADVA116M



●設置前にテレビと金具の適合を必ずご確認ください。

取り付け前提条件	テレビ背面对応ネジ穴幅	対応テレビインチ	最大テレビ重量
テレビ背面に壁掛け用のネジ穴が開いていて、 テレビ背面がフラットである事	テレビ背面にある壁掛け用ネジ穴の縦横ネジ幅 縦 10センチ～40センチの間 横 10センチ～40センチの間	37-65 インチ	25kg

この度は、お買い上げいただき誠にありがとうございます。
当商品は、D I Y（日曜大工）が得意な方でしたら、慎重に作業すれば設置可能です。
しかし、組立・取り付けの不備による事故について保証はございませんので、作業に際しましては十分にご注意くださいますようお願い申し上げます。
基本的には、お近くの内装業者・電設業者へ依頼をされる事をお勧めします。

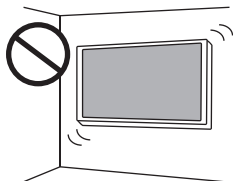
⚠ 組立不良・取り付け不良、および天災等による事故・損害については、一切の保証はございませんので、ご了承ください。

- ・安全性を十分に考慮し、設置中に怪我や部屋にキズを付ける事の無いよう注意下さい。
- ・設置にあたっては、十分な作業スペースを確保してください。
- ・取り付け工事は2名以上で行うことを強く推奨いたします。
- ・テレビの壁掛け以外のご使用、部品の改造等はしないでください。
- ・設置中に少しでも不安を感じた場合は、作業を中断し、お近くの内装業者・電設業者にご相談ください。

設置にあたって：必ずお読みください



- 必ず耐荷重強度のある壁や壁裏の間柱（スタッド）にしっかりと設置してください。無理な設置はテレビの落下、大怪我に繋がります。
- 特に石膏ボード壁の場合、必ず壁裏の柱が補強壁に設置するようにしてください。
- 電源コードや配線にキズを付ける事の無いようにご注意ください。火災などの原因になります。
- 設置の際は、テレビや周辺機器の電源をコンセントから抜くようにしてください。
- 以下の場所には設置をしないでください。
 - ・振動があるような不安定な場所
 - ・人がぶら下がったり、寄りかかったりするような場所
 - ・湿度や温度の高い場所
 - ・テレビの通気が悪い場所（エアコンの側、天井のすぐ側等）
 - ・開閉するドアの近く
 - ・その他、テレビ設置に不適格だと思われる場所

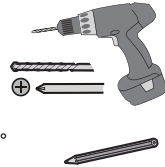


※中途半端な設置はとても危険！

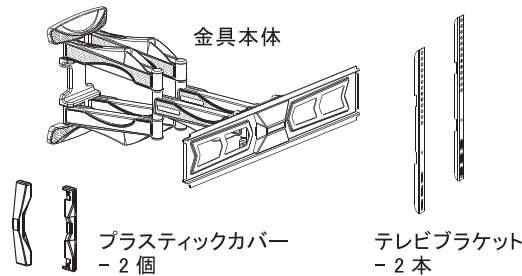
※コンクリート壁への設置は 個人では危険です。業者に依頼して下さい。

設置にあると便利な道具

- 1) 間柱センサー、壁裏調査針
壁裏にある間柱を見つけるのに便利です。センサーについては、細い針（検知針）やキリを壁に刺して代用する事も可能です。
- 2) ドライバー
ネジ頭のサイズに合わせて、数種類があると便利です。
- 3) ドリルドライバー
電動ドライバーです。壁のネジ穴の下穴を開けるのにも使えます。
- 4) ペン
壁にネジを打ち込む位置をマーキングします。
- 5) メジャー
床からの距離を測ったり、金具の水平を取る時などに使用場合があります。
- 6) 柔らかい布
床などにテレビを置く時に下に敷いてテレビを保護します。
- 7) 軍手
手を保護します。テレビを持つ時は滑らないように素手が良いかもしれません。



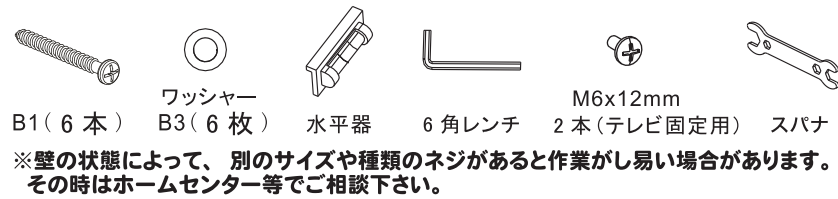
部品リストー覧



●「テレビ側」取り付け用ネジ部品 一覧



●「壁側」打ち込み用ネジ、及び、その他部品 一覧

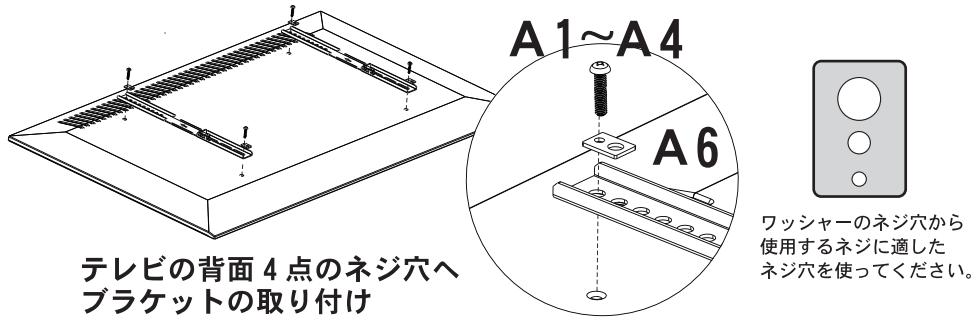


ステップ1

テレビブラケット（左右2本）の取り付け

図を参考にして、テレビに合うネジと角型ワッシャーを使用し、ブラケットを2本共に テレビ背面にネジ止めします。

取り付ける際に上下を良く確認してください。
各種のネジが付いていますので 合うネジを使用しますが、手元のテレビに合う長さや径のネジが無い場合、お手数ですがホームセンター等でご用意ください。



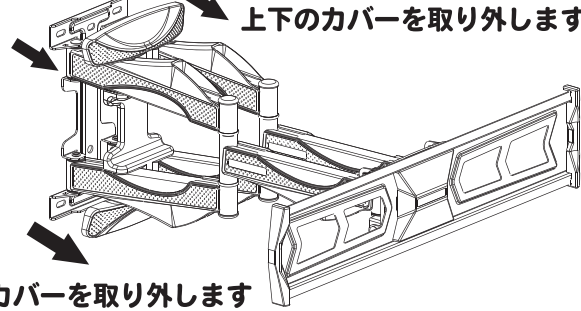
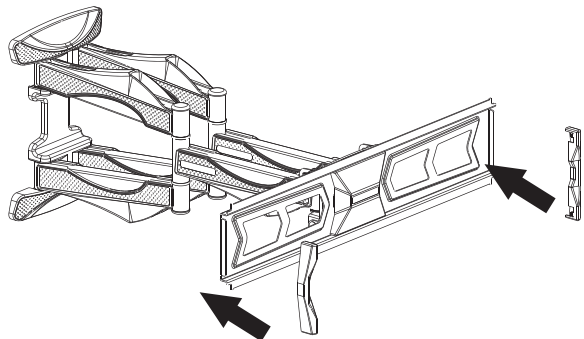
- 1) ブラケットの上下を間違えないように注意してください。
- 2) 万一、ブラケットのネジ穴がテレビ背面に合わない場合、お取付出来ません。設置作業を中止してください。

ステップ2

プラスチックカバーの取り付け、取り外し

図を参考にして、プラスチックカバーを左右に取り付けます。

次に、図を参考にして、壁面プレートのベース部にある上下のプラスチックカバーを取り外します。



ステップ3-A

壁の強度の確認と下穴の開口



テレビ壁掛けの最重要ステップです
取り付けは、慎重・確実に作業するようにしてください。壁面への取付不備による事故・損害については、保証がありません。
少しでも不安に感じたら、お近くの内装業者・電設業者に相談してください。
最重要ポイント
壁裏の間柱や強度の強い壁に設置を！！「石膏ボードのみ」へのネジ打ちでは強度不足です！

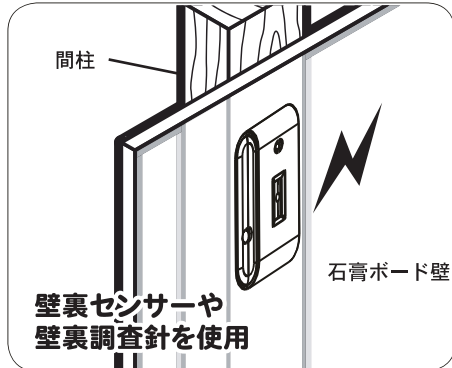
1) 壁の構造の確認（必ず耐荷重のある壁への設置を！）

設置は補強のある壁、もしくは壁裏の間柱（スタッド）に行ってください。
石膏ボード壁の場合、必ず壁裏の間柱を見つけてそこにネジを打ってください。

2) 壁裏柱（間柱・スタッド）の見つけ方

石膏ボード壁の裏の間柱を見つけるには、弊社ショップや工具店等で売っている以下の道具が便利です。間柱は、一般的に 40～50 センチ幅で配置されています。

- 1、「壁裏センサー」（電波式） 壁の裏にある物体をセンサーします。柱以外の物体にも反応するので、他の方法との併用が確実です。
- 2、「壁裏検知針」 細い針です。針を刺してみる事で、壁に目立つキズを付けずに石膏ボード裏に物体があるかを物理的に検査出来ます。

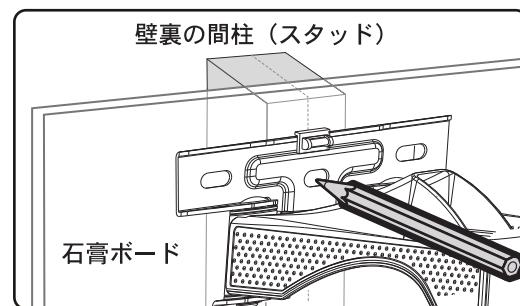


一般的石膏ボード壁の場合。壁裏センサーを使用して間柱を見つけます。壁裏調査針は、何度か刺して柱の中央を見つけましょう。

ステップ 3-B

下穴用の位置のマーキング ネジ用の下穴の開口

壁裏の間柱のネジを打つ位置にマーキングをします。(補強壁の場合は、お好みの位置) 確定したら、金具を壁にあてがい、下穴候補の部分に、それぞれペンでマーキングをします。

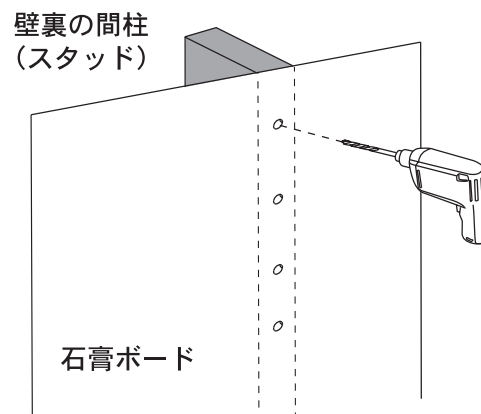
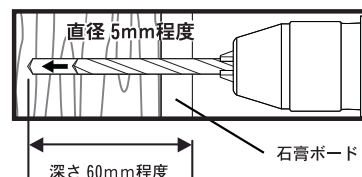


間柱に沿うように、
ネジ穴の位置をマーキングします



ネジ打ち用の下穴を開けます。電動ドリルがあると便利です。壁にキズをつけますので、慎重に作業を行ってください。下穴を開けておくと後の作業が楽になり、工事の失敗の可能性が下がります。

下穴の寸法の目安

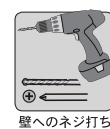


ステップ 3-C

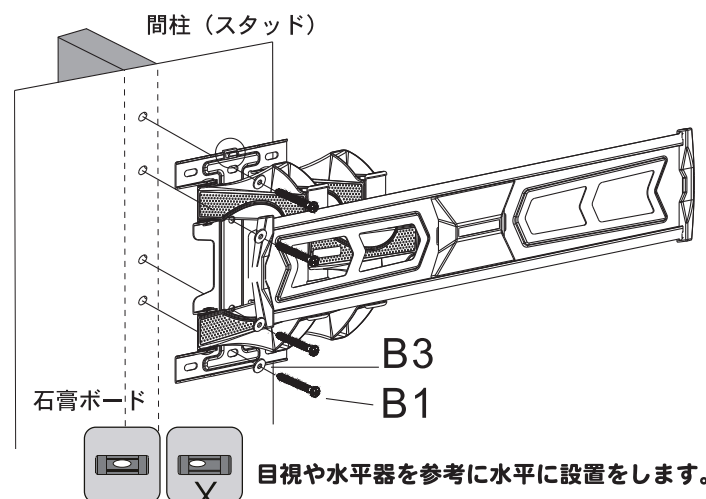
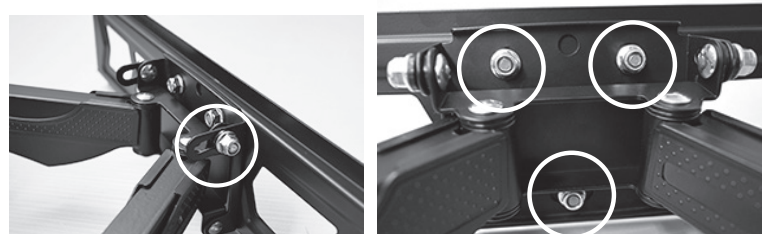
壁へのテレビ金具の打ち込み

金具には上下があります。写真を参考に金具の上下をよくご確認の上、作業を行ってください。

ステップ7の水平調整ネジ3点の向き(上2点、下1点)、及び上下(チルト)調整ネジが上側にあることをご確認ください。



最も大切な部分です。図を参考に壁用ラグボルト [B1]、ワッシャー [B3] を使用して金具を壁面にしっかりと打ち付けます。

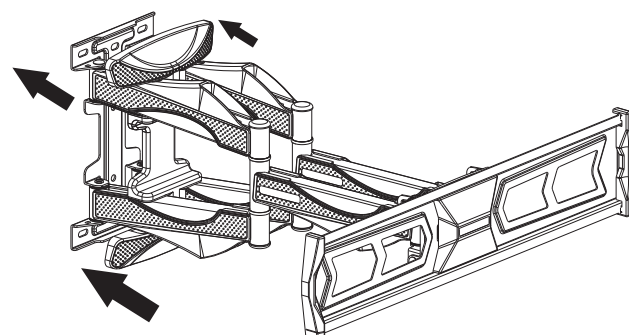


⚠ 設置は自己責任です。必ず間柱に設置を!
ご注意
ネジ打ち後、少しでも違和感を感じたら(ネジの空効き等)設置を中断し、専門業者に相談してください。

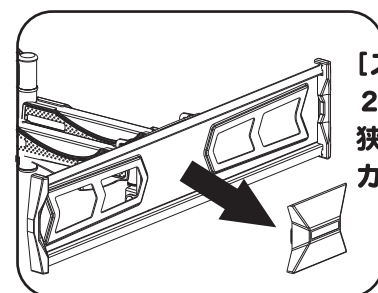
ステップ 4

プラスチックカバーの取り付けと中央カバーの取り外し

ステップ2で取り外したカバーを取り付けます。



ステップ1でテレビに取り付けたブラケット2本の間隔が10cm程度の場合、下図のように中央のカバーを事前に外してください。



【ステップ1】で、テレビに取り付けた2本のテレビブラケットの間隔が狭い時(10センチ程度)カバーを外します。



ご注意

ステップ 5

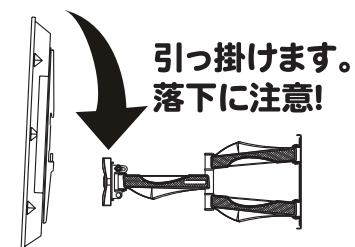
テレビを金具本体に引っ掛けて、ロックします



ご注意

ネジ止めでロックするまで、
テレビの落下の危険があります。十分注意してください。

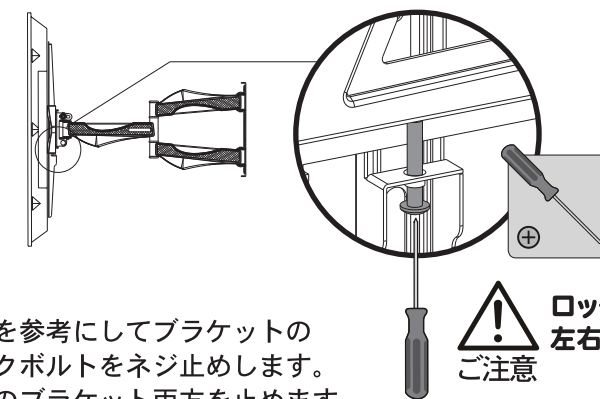
1



引っ掛けます。
落下に注意!

図を参考にテレビを持ってブラケットをプレートに「引っ掛けます」。

2



上図を参考にしてブラケットのロックボルトをネジ止めします。左右のブラケット両方を止めます。

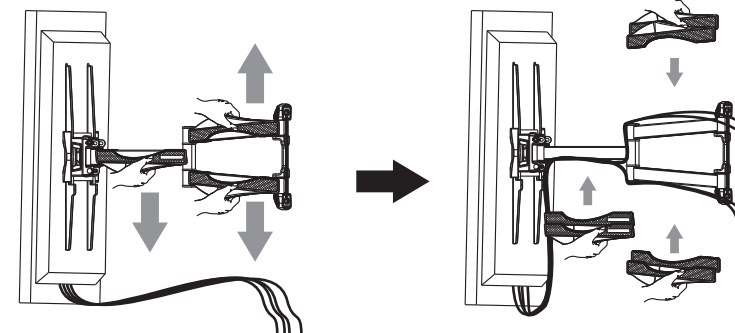


ロックボルトを
左右とも締めます。
ご注意

ステップ 6

配線処理 ケーブルホルダーの活用

配線をアームのカバーに隠します。図を参考に、各プラスチックカバーの中にケーブルをまとめる事で、ケーブルを綺麗に取回せます。

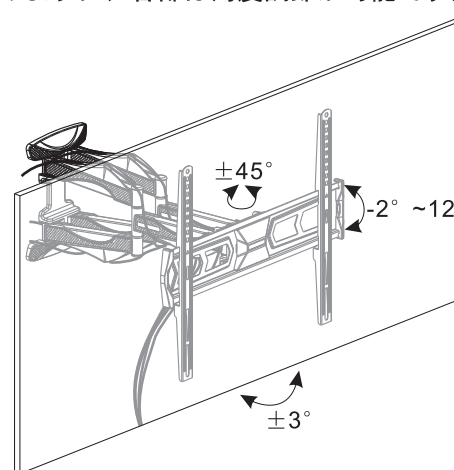


カバーを使って、
ケーブルを綺麗にまとめましょう

ステップ 7

各部の角度調節について

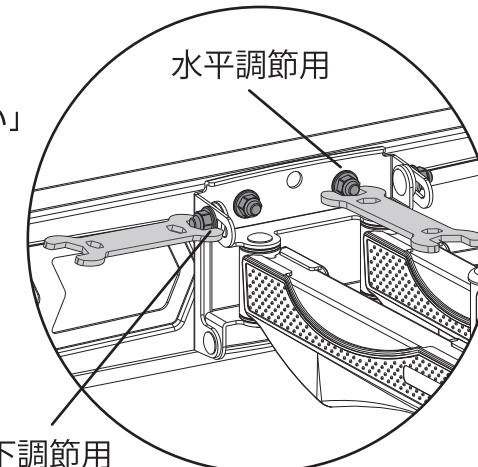
図のように、各部は角度調節が可能です。



「上下」や「水平」の角度調節が上手くいかない場合

テレビの重さによっては、「前垂れ」や、「ボルトがキックて調節が出来ない」場合があります。

その時は、右の図を参考にレンチを使用してそれぞれのボルトの締め具合を適切に調節してください。



上下調節用



最後に

各取り付け部分や壁面部にガタつき等がないか、チェックしてください。緩みがあった場合は、しっかりと締め直しましょう。少しでも違和感があった場合、テレビを一旦取り外し、専門業者に相談してください。これらのチェック作業は3か月程度を目安に定期的に行い、経年使用による落下などが無いように注意してください。